

# 平成28年度「地域と共にある学校づくり」ボランティア研修会 実施報告

1 日時	平成28年7月1日(金)	14:00~16:00
2 会場	奈良県産業会館(大和高田市幸町2-33)	
3 参加者	52人(PTA関係者、教職員、市町村教育委員会事務局職員等)	
4 内容	14:00~14:05	開会挨拶
	14:05~14:15	事業説明 「地域と共にある学校づくり」について 人権・地域教育課 中島 憲作
	14:15~15:45	講演 「子どもに関わるときに大切にしたいこと」 天理大学大学院 教授 千原 雅代
	15:45~15:55	質疑応答
	15:55~16:00	閉会

## 5 講演概要

◇ 子どもの心をどう理解するかは、子育てをする上でも指導する上でも重要なことである。

### (1) 子どもは一人の人である

・大人は、子どもに自分の価値観を押し付けがちであるが、子どもは、子どもなりに自分で考え、世界観を練りあげていくものである。その世界観やものの見方を尊重すること、すなわち、子どもを一人の人として尊重することが重要である。子どもは、自分が十分に受け入れられていると思うと、安心して体験し、学んでいく存在である。子どもを見守りつつ、ぶつかり稽古の相手になることが大人の役割。



### (2) 子どもを理解する視点

・非行や不登校など、子どもたちは様々な課題を抱えているが、一人の子どもを理解するためには、本人のもって生まれたもの、家庭の子育て、学校環境、社会の在り方等、多岐にわたって考える必要がある。

・子どもは、適切に抱えてもらえる環境の中に身を置くと、見違えるほど成長していく。

・子どもと関わるときの基本態度

①その子の存在をそっくりそのまま受け入れ、寄り添う

②子どもの話を共感的に聴く

③子どもの居場所になる

→相手の身になって分かること(=「共感的理解」と、じっとそこにとどまり、相手と向き合い、対話し続けること(=「壁になること」)が重要。

・子どもとどうつながるか

①子どもが安心して語れる状況を作る

②話をそのまま聞く

③正論・説教はあまり役に立たないものと心得る

④子どもの心の窓を大事にする

### (3) 巻き込まれつつ踏ん張る

・思春期は、自分を一から作り直すぐらいの激動の時期であり、ときに破壊性をみせることもある。その子どもに対して踏ん張って向き合うことが重要。

・学校や信頼できる先生と連携し、先走りし過ぎずに「子どもの居場所になる」ことが、地域に求められる支援。

## 6 感想

・「わかっているつもり」の怖さ、子どもに寄り添うことの大切さなど、自分自身の関わり方を考え直す内容ばかりでした。

・「特別な知識を持たないまま、子どもの心を傷つけたら…」などどいった不安を、少し取り除くことができました。